

moshi moshi

1998 Vol.7

お医者さんと上手にコミュニケーションしましょ

特集：風邪と抗生物質



以前は抗生物質が風邪の薬のひとつとして出されることが多かったためか、風邪は抗生物質で治ると考えられる傾向がまだあるようです。また、お母さんの中には「この抗生物質こそうちの子に必ず効く薬」と信じている人もいますが、残念ながらこれに医学的根拠はありません。

水腎症

腎臓でつくられた尿がスムーズに膀胱に輸送されないために起こる病気。大半は胎児期からの先天的なもの。尿管が狭い、尿管が膀胱についている部分の異常やねじれなどによるが、先天的なものの65%までが男の子。膀胱からの逆流がひどいと腎臓の機能が悪くなるので、手術となる場合があるが、中等度以下の逆流は5～6才までに自然に治ることが多いので手術せずに待つことが多い。最近は出生前超音波診断で偶然水腎症が発見されることがあるが、胎児性のものの50%は生まれる前や生後間もなく自然治癒している。



アレルギー性（血管性）紫斑病

血管が炎症を起こす病気。傷んだ血管から出血するために皮膚に紫色の斑点が出る。アレルギー性紫斑病の特徴は、①皮下に出血斑が出る、②関節の血管も炎症を起こして関節が腫れる、③腸などの血管も炎症を起こしておなかが痛むなど。3つすべてが出ない場合もある。アレルギーといっても原因はよくわからないことが大部分。1～2週で治ることが多いが、数か月続くこともまれではない。腎臓の血管に炎症が起ると腎機能を悪くすることがあるので、尿の検査をたびたびして様子を見る。

この小冊子の内容は「医師による発育・発達・病気の電話相談」からの内容を抜粋したものです。

03-3219-0797 毎週水曜日 14時～17時に受けつけています

監修

横田俊一郎先生（横田小児科医院院長）

構成／泉美智子 イラスト・レイアウト／いとうやすこ

風邪と抗生物質

かかりつけのお医者さんはうちの子に合う抗生物質を出してくれませんか。抗生物質を出してくれないときもあるんです。

—6才5か月のS子ちゃんのママとの電話相談から—



も風邪を治す薬はないのですから。

え？ 風邪の薬がない？

先生 ● そうです。風邪のウイルスを直接やっつける薬はありません。

となると風邪で病院にかかっても仕方がないということになりますか。

先生 ● 風邪の薬の場合は対症療法といって、鼻水が出るときは鼻水の薬、咳が出るときは咳という具合に症状を抑える薬を出して患者さんが少しでも楽になるようにすると同時に、肺炎や中耳炎を起こしていないかもチェックしますの

で、病院に行ってもむだということはないと思いますよ。

— そうなると抗生物質は何のために出るのであるのか。

先生 ● ウイルスによる風邪のあと二次的に細菌感染を起こして経過が長引くことがあるので、それをこわがって抗生物質を出すことが多いですね。しかし、風邪には抗生物質は出さないという医師もたくさんいます。いままでも安易に抗生物質が出されすぎたために抗生物質が効かない細菌が出てしまい、その治療がいま問題になっているからです。

先生 ● 私はどうしても心配で今回は抗生物質はいらないといわれたときは前にもらって残っている抗生物質を使うようにしているのですが。

先生 ● できれば先生の指示に従ってください。米国では必要のない抗生物質を飲まないよう、患者さん向けのキャンペーンも行われています。勝手な判断で安易に抗生物質を使わないようにしてほしいですね。



発育達

5才2か月で98.1cm。
経過みるとは？

Q 5才2か月の女の子ですが、いま98.1cm。骨年齢は年相応といわれました。今後、経過をみるといわれましたが、経過をみるとはどういうことですか。グラフに身長を記録していくだけのことですか。

A いままでの身長をグラフにプロットしてみるとまだ正常の範囲。このままラインに沿って伸びればいいのですが、急に下降線をたどったり、急に上昇したら要注意。ですから今後もグラフに身長を記録していくことは欠かせません。経過をみるとというのは定期的に医師が身長、体重を計測してこのグラフを作っていくと同時に手のレントゲンをとったり、ときには血液検査をしたりして問題が出ていないかをみていくことです。身長を正しく計測することは意外に難しく、家で測ると誤差が出がち。経過を追う場合は医師による計測が原則です。



低身長

まだ寝返れない

6か月で寝返れない。
仮死産だったので不安が大きい



Q 首がまだぐらついているけれど、先生は心配ない、寝返らないのも心配ないといわれます。1分ほどすわれるし、よく笑うし、体重も順調ですが、仮死産で羊水吸引、アプガー指数が1分後が6、5分後が4だったので不安です。東京まで出て大きい病院でいちどみてもらったほうが安心できるでしょうか。

A 1分すわっていられるということは寝返りを通り越して先のことができるということで、発達が遅れているとは考えられないですね。仮死産で赤ちゃんに長いこと酸素がいかなくても赤ちゃんは結構大丈夫なことが多いのです。生まれたときの状況より「いま」を見てください。いま元気であることがいちばん大事です。大きい病院に行けば、これを調べられる機械があるというわけでもありませんので、いままでもみてもらっているところで定期的にもてらうだけでよいのではないですか。仮死＝障害ではなく、今後が大切なのですから。

